

○「今後の農業をどうするのか」

(京都府綴喜郡井手町第3回地区連絡会議)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他
(農業委員会の
体制強化等)

1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 平成30年11月13日午前11時～
- 場 所: 井手町自然休養村管理センター
- 出席者: 委員11人
事務局 菱本事務局長、坂井担当
- 報告者: 今井 農業会議現地推進役



2 地区の特徴、状況、課題

- 本町の西側を木津川が南北に流れ、東側には山地が広がり、中央部にJRが南北に走っている。
- 農地は、主に木津川とJRに挟まれた平坦部に広がり、米を中心に筍、茶が栽培されている。
- 担い手が少なく、高齢化により、ほ場条件の悪い山手の農地で遊休化が進んでいる。



3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 宇治木津線の計画路線の公表・説明会が開催されたことをきっかけに、地区連絡会議で「今後の農業をどうするのか」をテーマに意見交換を行った。
- 道が完成する10年後に合わせて絵を描く必要がある。
- 10年後の農業を考えると大きく変わっていると思う。いろいろな人が入った研究会で構想をつくる必要がある。
- 構想を見せたら、新たに農業をやるという若者が出てくるかも知れない。
- 金にならないとだめ。八幡のネギみたいに儲かれば、若い者が農業をやる。
- 今後、農業委員として何ができるのかを意見交換して、具体的な活動につなげてほしい。

4 活動結果

- 情報・意見交換 1 時間
- 担い手への集積 a 増加
- 遊休農地面積 a 解消
- 新規就農者 人 支援